



平成 29 年 7 月 1 日現在	
世帯数	: 863 戸 (+6)
人口	: 1574 人 (+13)
男	: 764 人 (+6)
女	: 810 人 (+7)

「中甲」誕生秘話 ③

地域共有財産から生まれた中町の潤滑酒

お酒って、嗜好品 ですよ。ね。「中町の名刺代わりになるような商品」を目指して誕生し、今年で 4 シーズン目に突入した中町生まれの日本酒「中甲」ですが、実は当初からいくつかの課題も抱えておりました。



ごく一部に限られてしまう商品が果たして、まちと人を円滑に結ぶ潤滑油 と成り得るのでしょうか。

そして、二つ目の課題は「中甲」の品質、つまり「味」でした。考えてもみてください。様々なジャンルの料理を提供する中町の飲食店が、同じ種類の日本酒を料理に合わせようとするのは、数十年前の要求を一つの方向にまとめていくことになると難解なことでしょう。もちろん、一般的な好みや評価も無視できません。私たちは、酒造元との話し合いを重ね、「一年で思い描く酒に辿りつこうな」と考えず、何年も経験を重ねて育ててゆこう」と心に決めたのでした。

昨年 5 月。私たちは松本市神林の農地で、初の田植え作業に挑んでいました。田植え

に先立ち見学させていただいた美山錦の発芽作業では、正確な温度管理や絶え間ない攪拌と酸素の供給など、米がまさに生き物であることを実感しました。これももちろん「中甲」を仕込むための酒米です。農業に関わる機会の少ない商人の私たちには、とても貴重で「私たちの酒」という意識はますます高まりました。

酒米から育てた今年の「中甲」は、評判も上々です。毎年松本を訪れるお客様の中には、「今年の中甲、楽しみにして来たんです！」と嬉しい声をかけてくださる方が増えてきました。

まちの子供たちも加わり、来年のための田植えを終えたこの 5 月。「中町御用田」を前に爽やかな笑顔を浮かべたのは、もはや一部の物販店や飲食店ばかりではありませんでした。そこには、業種も年齢も越えて、「中甲」を通じて出会えた新たな同志、松本という地域の仲間が あったのです。



中町御用田田植えの様子

中甲誕生秘話②は、平成 28 年 7 月 30 日号の 9 月 30 日号に掲載されています。

Presented by 視聴覚委員会

まちかどフォト

「街をかざる 世界をかざる」
市制施行 110 周年記念全日本花いっぱい
松本大会に向けて、新伊勢町の花壇作り



地区の文化財

「松本の夏」
梅雨が明けると七夕
松本の夏は日差しが強い



ようこそ第一地区福祉ひろばへ

Mウイング4Fにある第一地区福祉ひろばでは、町会役員のみなさんによる企画委員会を中心となって、いろいろな講座を開催しています。参加は自由です。お気軽にご参加ください。今回は、その中から2つご紹介します。



すくすくひろば 第3金曜日午前10:00~

就学前の親子を対象とした子育て応援講座です。みんなで歌や体操、工作など、毎月いろいろな体験ができます。保健師や保育士もいますのでお気軽にご参加ください。



健康講座 第1・3火曜日午後13:30~

今年実施している「膝と足腰のケアをしましょう」の一場面です。理学療法士さんに良い姿勢や歩き方など教えていただき、みんなで一緒に楽しく健康づくりをする時間です。

毎月の講座内容については、第一地区地域だよりをご覧ください。



ひろばサークル紹介「紫陽花の会」



手芸サークル 代表/伊藤昭子 活動日 第3金曜日13:00~15:00

主に布を使って作品を作っています。画家・原田泰治氏の作品の押絵、袋など製作中です。

ひろばサークル紹介「囲碁の会」



囲碁サークル 代表/沼田義明 活動日 第2・4木曜日9:00~12:00

坂本先生にご指導いただきながら楽しく頑張っています。第1・3木曜日にも中央公民館で活動しています。

お仲間募集中!サークルの見学や参加をご希望されるかたは、福祉ひろば(電話:39-1173)までお問い合わせください。

商業地としての駅前周辺が大きく揺れ動く気配ですが、この町々実に生活し易いのです。過疎化する町でなく、子供がいっぱい住む町に変身は可能です。博労町の北向観音として伊勢町の世継地蔵と、きつちり素敵な家庭造りにこの町は見守られています。声を挙げましょう。菅谷市長さんに「箱物は我慢します。子供一人生まれたら百万円のお祝い金を小学校入学まで毎年、三人生まれたら三百万円出しましょう。全国に先駆けて実施します。」と仰ってください。

「電車通り」という呼び名は今もすっかり使っている年代です。学校前、清水そして横田は忘れない。少年期の好奇心で、遠かった。遠く過ぎていった時、やはりほろ苦さが残った方がよい。電車通りを南北に突っ切る町、博労町、本町、いか程に繁栄した通りが想像もつかないが、博労町という名だけでもドラマはいっぱい生まれそう。馬の悲しげないなき、馬喰達の興奮、そして小金を懐に緑橋(旧袖留橋)を右に折れ向島へ、もう少し歩いて天神小路へ。その前に十王堂跡の観音様に手を合わせたり...

